ほし組だより＜最終号＞

R7.3.14
臼井幼稚園

今年も卒園の時期が参りました。新しいランドセルを見てわくわくする反面、慣れ親しんだクラスの友達や先生と離れ、新しい環境になんとなく不安を抱いているお子さんもいらっしゃるでしょう。人というのは変化を嫌うものだそうです。できるだけ現状を変えたくない、変えようとしても変えたくない自分自身の意識に引っ張られるのです。だからチャレンジすることは子ども達にとって、いえ大人にとっても、ハードルが高く、かなりのエネルギーを要するのも頷けます。でも、日常の小さなトライ＆エラーを積み重ねて人は成長していくもので、それは一生涯続くのです。大きな転機（進級、進学、転校や受験、転居、就職、転職）というのはこれから何度も乗り越えなければならない波でしょう。みんながみんな、確固とした強い意志で進めればいいに越したことはないかもしれませんが、人に流され、まかれながら進むのも決して悪いことではありません。人はそれぞれ違うのですから、それぞれの違う力を発揮していければいいなあ、と思います。３月は別れの時期でもありますが、大きな転機の時期でもあります。一人ひとりの心の中に希望と小さな不安という変化がやってきて、それでもきっとすぐに慣れて凪のような日常がやってくることでしょう。

私達教員は、子ども達の小さなとまどいや不安をくみ取り、サポートしていきたいと思っています。一番そばにいてくださるご両親の皆さまには、より敏感に感じ取れるなにかを、小学校へ行かれても、積極的にお話しくださる方が、学校とご家庭の連携がスムーズにいくと思います。どうということはないと思われることでも、子どもにとっては一大事であることもあります。気になることは遠慮なくお伝えすることを強くおすすめします。

幼稚園では『実体験』をとても大切なものとして考えて、カリキュラムをすすめて参りました。子ども達にタブレットやスマホを与えないように、というのはもう時代遅れですね。検索すればすぐに出てくる答えは、便利ですぐに使えるかもしれませんが、『実体験』ではありません。chatGPT などで簡単に得られる答えは、実体験という部分が欠落しています。これから育っていく子ども達が生きていく世の中は、解決策が簡単に見つからない問題がたくさんあります。答えのない複雑な『問い』に応えられる生きる力を、『実体験』を通じて身につけていけるよう、ご両親にも日々『問い』を立て、子どもが自ら解決できるよう心掛けていただけるといいと思います。
知識を詰め込むだけの勉強ならできなくても構いません。（これからは AI が覚えていてくれます）それよりも、自分の身体で感じたことや身につけたことは一生の宝物に、生きる力になります。どんなことがあっても、しなやかにのびやかに。
大切なお子様を数ある幼稚園の中から臼井幼稚園を選び、お預けくださったことを心からお礼申し上げます。

志田裕美子

＜連絡事項＞

1. 卒園アルバムが出来上がりましたら、ハガキでお知らせいたします。（夏頃を予定しています。）
2. 寄付にご協力ください。
   制服・体操服・縄跳び・カラーペン・筆・はさみ・クレパス
3. 文字遊び（絵本作り）は、一冊はご家庭で一緒に作ってください。詳細は、持ち帰った文字遊びの袋に入っています。
4. 卒園製作で作ったフォトフレームに写真を入れて持ち帰りますが、汚れないようにアクリル版にはフィルムを付けたままにしてあります。ご家庭で剥がしてください。

＜担任からのメッセージ＞

ついに来てしまいました……卒園式。
どんどん成長するみんなを送り出せることは本当に幸せな日なのですが、本音を言うとやっぱり
『さみしいーーーー！！！』
『行かないでーーー！！』と叫びたい気持ちです。

思えばこの１年……
そこは盛り上がるとこでしょー！！
おーーーーーい！！！
大丈夫？？？

〈2 ページへ続きます〉

ニヤニヤしてる場合じゃないのよー！！！
などなど、１人でやんややんやと騒ぎ立て……どんなに雄叫びをあげても、いつだってみんなは微笑んで微笑んで……。
ある意味４月から足並み揃えて、一歩引きながら笑ったり…行動したり……団結力を見せてくれていたんだなあとしみじみ振り返りました。
先日のお別れ遠足では、危険な遊具などの説明を済ませ、じゃあいってらっしゃーい！と解散すると、今までの経験だとそれぞれ違う方向にバラけていっていたのですが、なんとほし組は「イエーーーイ」と喜びながら、一斉に長い滑り台に一直線で向かっていて、自由で良いんだよ～と言う私の言葉にも「楽しそうだから～」と最後尾の子が答えてくれて、楽しいこともみんなでたくさん共有してきたんだと思ったら、喜びも倍増になり、さすがほしぐみだなあと嬉しさもありつつ、そら組とは違う解散の仕方に笑ってしまいました。

　これってやっていいのかな？？
誰かがやってくれたら、やってみる。
苦手だからやりたくないなあ……。
できないからみんなの前でやるのは恥ずかしい。
分かるんだけど、みんな手を挙げていないしな……。
失敗したらどうしよう。
こんなこと聞いて良いのかな……。
など、とにかく不安や心配が先に立ち、周囲をキョロキョロ見渡して、石橋を叩いて、叩いて、叩きまくってから渡ってみる子が多く、些細なことで心が折れる子もたくさんいました。
どんなことでもやってみることが大事だよと伝えても、とにかく分かる人、できる人がいたらお先にどうぞどうぞの精神で……。でも、得意なことは譲れないくらい頑固な気持ちも持っていて、話し合いなどは物凄い時間を要しました。
最初のうちは、なかなか上手く解決できなかったことも、自分でしっかり考えて、相手に伝えてみることも挑戦し、様々な場面に対応できるようになった子もいます。
何よりもピカイチだったことは、思いやりです。困っている子を見つけると、友達がいつだって寄り添って助けてくれたり、泣いている子にはティッシュを持ってきて涙を拭いてあげたり、優しさ溢れる頼もしい存在でした。
友達から優しくしてもらった思いやりの気持ちは、ずっと心に残っていくと思います。誰かが困ったり、不安な時にすぐに手を差し伸べられる力は、小学校でも大切です。この気持ちを忘れることなく、いつまでも大切にしてほしいなと願っています。
みんなで素敵なところを発見していく活動も、時間がなくなって聞き忘れる私に、「素敵なところを見つけてたのに、忘れないで！！」と突っ込んでくれるほど、自然に発表してくれる子が増えました。
自分から発信していくことは苦手でも、こうしてみようと伝えると、しっかりと受け止めてチャレンジできる力を持っているので、どんどんやってみる！！という気持ちが前向きに見られたことがとても嬉しかったです。

卒園のカウントダウンが始まると、「あと少ししかない」「寂しい」「お別れしたくない」「卒園は寂しいけど、春休みに楽しいことがあるからそれも待ち遠しい」などと、様々な呟きが聞こえてきました。
他の先生たちがおはようと入ってきても、「……シーン……（ニヤニヤ）」だったみんなも、誰がきても元気いっぱい返事ができるようになり、やってくれる人～と聞けば、「はい！はい！はーい！」「やりたい」と張り切ってくれて、４月には想像もできないくらい元気いっぱい、盛り上がり最高のクラスになりました。
卒園式のリハーサルでは、「緊張する」なんて呟きもあったので、証書をもらう時の返事が小さかったり、とにかく早く椅子に戻りたくて小走りになったりしていましたが、みんな同じ気持ちでいるから最後まで楽しもうと伝えています。
きっと、入園、転園した頃を思い出し、入場から感動でウルウルなみなさんだと思いますが、最後に一緒に歌うことをとても楽しみにしていたので、素敵な歌声を聴かせてくださいね。

　１年間、至らないことばかりでしたが、温かく見守ってくださり、時には励ましてくださり、感謝の思いでいっぱいです。
本当に、ありがとうございました。
みんなの活躍を陰ながらずっとずーっと応援しています。
お忙しいとは思いますが、お時間を見つけて是非、遊びにいらしてください。その時は、楽しいお話を聞かせていただけるだろうとワクワクしながらお待ちしております。

山口　朱美